



森之宮キャンパス1.5期開発 及び OMU「秋入学(学士課程)」の実現に向けて

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

2026年2月12日(木)

公立大学法人大阪



- ・森之宮キャンパス1.5期開発について ······ P.3
～大阪城東部地区のまちづくりの方向性の実現に向けて～

- ・OMU「秋入学（学士課程）」の実現に向けて ······ P.9
～「College of Creative Studies（仮称）」の設置～

森之宮キャンパス1・5期開発について ～大阪城東部地区のまちづくりの方向性の実現に向けて～

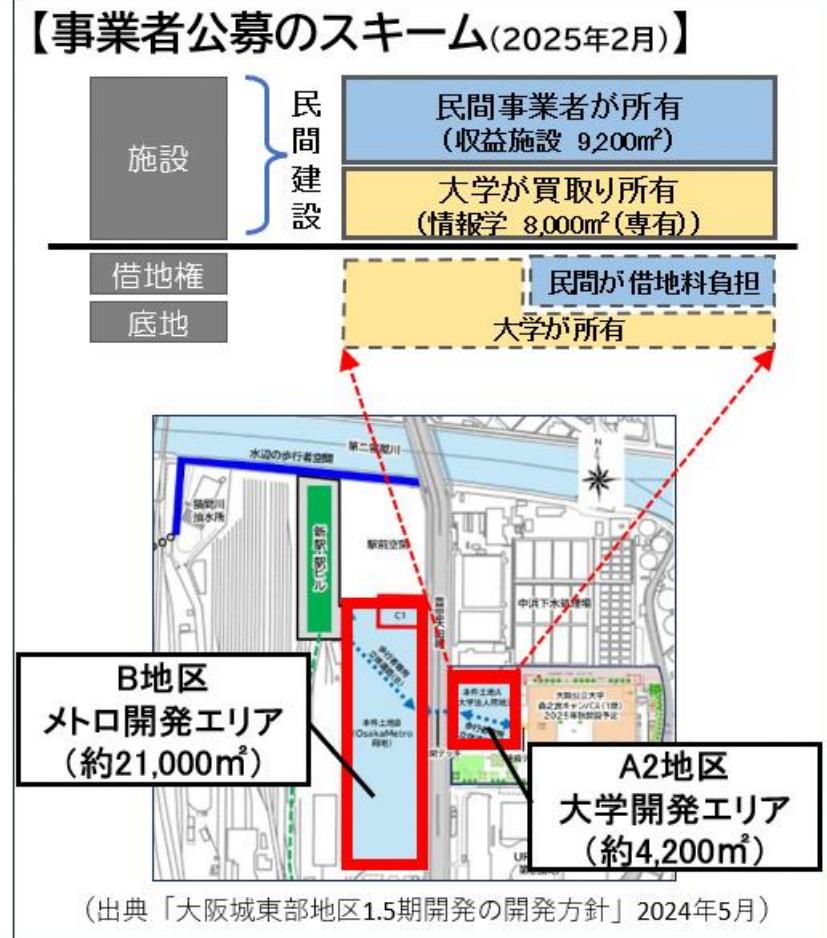
1 「1.5期開発(A2敷地)」開発経過

◆これまでの経過

- ・2020年1月 府市戦略本部会議で「新大学基本構想」策定
- ・2020年7月 同年3月の府議会附帯決議を受け、「新大学基本構想」を変更 「情報学研究科」を森之宮キャンパスへ
- ・2020年9月 「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」策定
- ・2024年5月 「大阪城東部地区1.5期開発の開発方針」策定
- ・2025年2月 大阪城東部地区まちづくり検討会での決定を受け、1.5期開発事業者公募を実施
- ・2025年5月 入札不調 →大学としてキャンパス整備の再検討に着手
 - 事業者等へのヒアリングでは、建設資材高騰や、民間の床保有等で採算性の課題があり、民活事業の成立は困難
 - 森之宮キャンパス周辺ビルへの入居も検討したが、秋入学に必要な面積確保が困難、また、情報学等の入居では床賃料負担が中長期的に過大化

検討を踏まえ、改めて原点に立ち返り、大阪の成長・発展に貢献するため、大阪公立大学として森之宮地区で備えるべき機能・役割について再整理を行った。

大阪・関西万博のレガシーを起点とした
大阪ならびに大阪公立大学の新たな成長に向けた展開



◆未来に飛躍する大学の将来像 “大阪・関西万博のレガシーを起点とした新たな成長に向けた展開”

- 大阪公立大学は、大阪・関西万博のレガシーを継承・発展させ、これからのが「BEYOND EXPO」時代の大坂の持続的成長に貢献するため、森之宮キャンパス1.5期開発により、
 - ・情報学を核とするAI研究・教育の集約・強化による高次都市機能
 - ・产学官民の共創やスタートアップの創出による新産業の創出機能
 - ・「秋入学」の展開による国際戦略機能
 - ・社会人(リスクリング)を含む多様な人材育成機能などを森之宮地区に戦略的に集積させる。
- このことにより、森之宮キャンパスが、「都市シンクタンク」「技術インキュベーション」機能が高度に展開される本格的な「知の拠点」へと大きく飛躍し、大阪の成長と国際競争力強化を先導する。

3 具体的な取組

◇具体的な取組

情報学研究科の集約・情報学部の新設

最先端IT技術を支える高度専門人材の育成
AIを中心とした産学連携の中核

スタートアップ・产学連携拠点の新設

企業・研究者・学生の日常的な交流と共創
スタートアップ支援

秋入学の開設

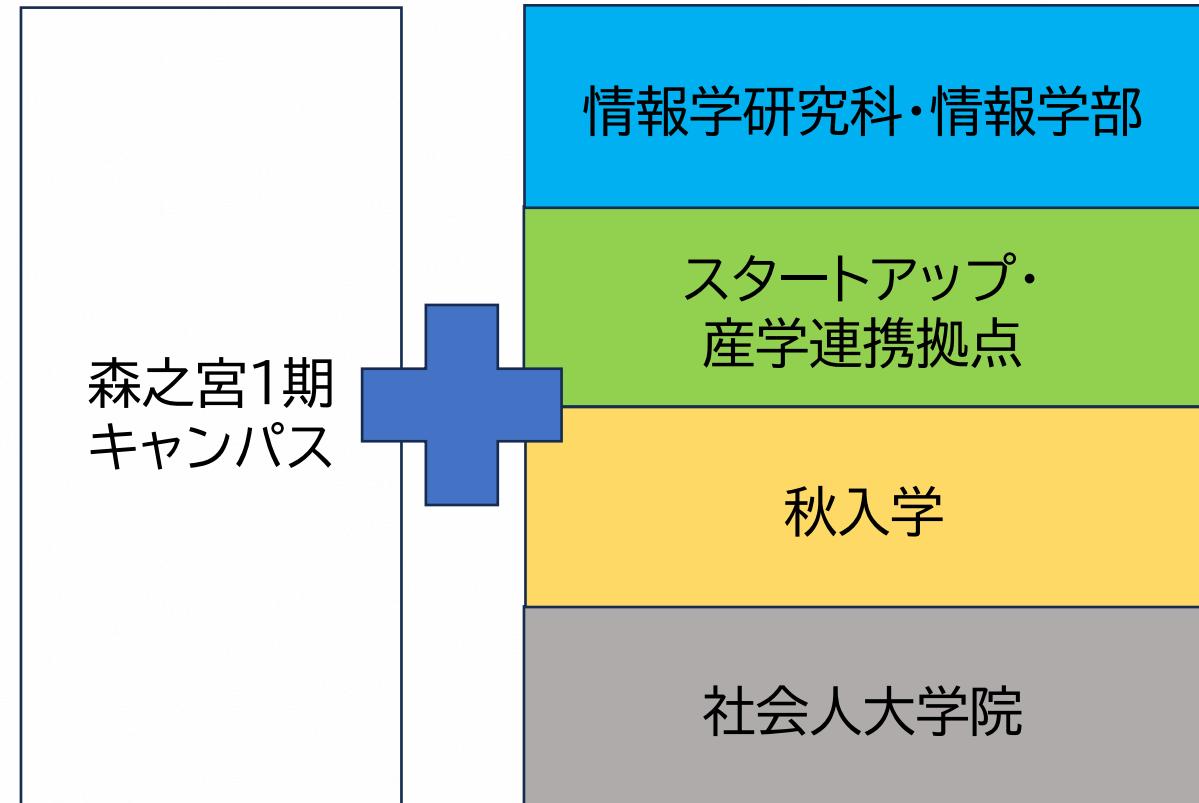
大学の国際化ならびに大阪の国際化を牽引

社会人大学院の開設

社会的要請の高いリスクリソース需要に対応

さらに、これらの機能を一体的に実装し、大阪城東部地区のまちづくり方針である「イノベーション・フィールド・シティ」の実現をめざす。

◇将来の森之宮キャンパス全体像



1期開発
(2025/9開設)

1.5期開発
(2031春全体開設)

4 開発概要

■森之宮1.5期開発 概要

完成時期：1.5期施設開設は2031年春

項目	機能開設時期	面積
情報学研究科集約・ 情報学部新設	2031年度 森之宮へ移転	約10,400m ² (専有約8,000m ²)
スタートアップ・ 産学連携施設	2031年度 本格始動	※1
秋入学	2029年秋 開設*	約2,000m ² (専有約1,500m ²)
社会人大学院	2030年度 拡充・開設をめざす	※2

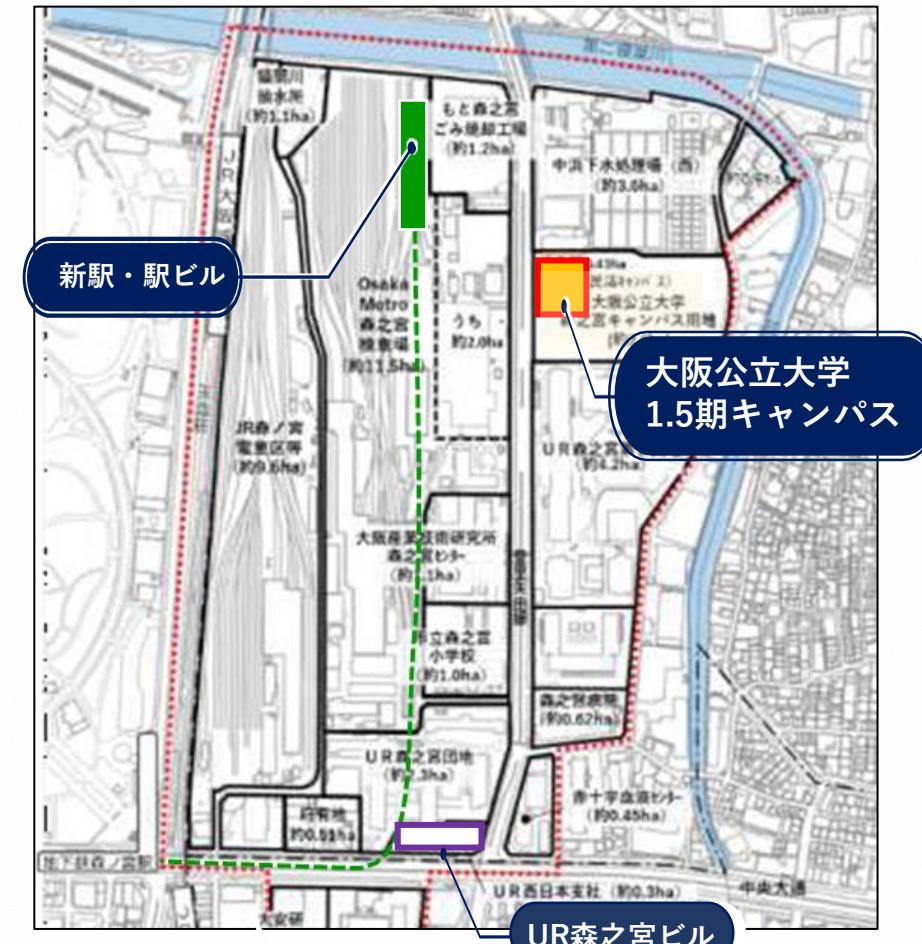
計 約17,400m²(10階建て程度を想定)

※1、※2、その他施設をあわせ約5,000m²

* 秋入学については、1.5期高層学舎の完成が2031年春となるため、可能な範囲で開始時期を前倒しし2029年度秋開設とした。

* 森之宮キャンパス1.5期開発は、昨年の公募時とは異なり、大阪市高速電気軌道株式会社(大阪メトロ)の開発とは事業主体を分けて推進していく。
なお、引き続き同社との緊密な連携のもと、一体的なまちづくりの実現に努めていく。

■開発エリア 位置図



■森之宮1.5期開発 経費(概算)

総額:約196億円

年度	内訳	金額
2026	基本計画 経費	約0.3億円
2027	基本設計、実施設計 経費	約8億円
2028	本体工事着工	約17億円
2029	本体工事	約47億円
2030	本体工事、什器、移転等	約124億円

大阪公立大学としても複数の拠点集約を進める

- ・I-siteなんば 2028年3月末撤収
- ・駅前第2ビル・UR森之宮ビル 2030年度目途に撤収予定

※上記の経費は、現在の物価単価で試算したものであり、今後の変動で変わる可能性あり

OMU「秋入学（学士課程）」の実現に向けて ～「College of Creative Studies(仮称)」の設置～

1 OMUにおける「秋入学(学士課程)」のねらい

- ◆ 国内外から優秀な人材を集め、グローバルに活躍できる人材を育成する。併せて、大阪の未来を担う「知の拠点」としての新たなOMUブランドを確立し、国際都市大阪の活力の向上に一層貢献することをめざす。
- ◆ そのため、OMUの本格的な国際化戦略の切り札として、京阪神の他の有力大学に先駆けて、特色ある「秋入学(学士課程)」制度を森之宮の地で展開する。
- ◆ 実施にあたっては、大阪の企業・経済界との共創、大阪府内高校との連携・高大接続を一層強化し、「大阪の公立大学ならでは」の取り組みとする。
- ◆ 原則英語で授業を実施し、OMUにおける国際共修のコアとして位置づける。

2 新たな教育研究組織

「College of Creative Studies(仮称)」の新設

「秋入学(学士課程)」に対応するため、通常の学部に相当する分野横断型の新たな教育研究組織(学部等連係課程)を設置

◆ 求める学生像 :

- ・新たな挑戦に主体的に取り組み、個性と複眼的視点を活かして価値創造をめざし、多文化環境での協働を通じて地域と世界の課題解決に挑戦しようとする学生

◆ 育成する人材 :

- ・知的探求・創造性・実践性を基軸に、国際性と地域理解を備え、分野横断で新たな知を創造し、国際機関や国際NPO／NGO・自治体・グローバル企業等の産業界・アカデミアなど多様な領域で社会変革を牽引する Knowledge Creator

2 新たな教育研究組織

- ◆ 入学定員 : 50名（留学生25名、日本人学生25名）
- ◆ 「飛び入学」を含む多様な入試制度を積極的に活用し多彩な人材を確保
- ◆ 教員体制 : 新規採用教員15名（内、5名は組織再編で捻出）+ 連係協力学部等教員
- ◆ 使用言語 : 原則全て英語
- ◆ カリキュラムの特色 :
 - ・ 全学部・学域の知が結集し、創造性を最大限に伸ばす学際科目
 - ・ 世界中の仲間と学ぶ、全授業英語による国際共修
 - ・ 地域・産業界と連携し、創造性を發揮する社会課題型PBLと実践インターン
 - ・ 世界の現場で学ぶ日本人学生の短期留学を必修化
- ◆ 主なキャンパス : 森之宮地区（1.5期）
- ◆ 開設時期 : 2029年秋

3 カリキュラム概要

1年次に語学・科学的思考・共創基礎を修得し、2年次以降は分野横断的な創造的探究科目群から科目を選択。PBL(Project-Based Learning:プロジェクト学習)、インターンシップ・短期留学、卒業研究あるいは共創課題科目を通じて、学生が自律的に学びを設計する創造的カリキュラム。

Year 1

Cross-Cultural Language Skills
(語学教育)

Introduction to Scientific Thinking
(科学的思考)

Open Electives
(2年次への導入科目)

Foundations of co-creation
(共創基礎)

Year 2

Creative Discovery Studies
(創造的探究科目群)

領域横断的な視点から社会の課題を創造的に探究する科目群

Co-Creation Projects
(共創プロジェクト)

自治体・産業界と連携したPBL科目

Internship and Short-Term Study Abroad
(インターンシップ・短期留学)

Year 3

Year 4

Capstone Research
(卒業研究)
or
Capstone Project
(共創課題科目)

Creative Discovery Studies (創造的探究科目群)

合計80～100科目程度を提供し、学生の希望に合わせて科目選択のできる自由度の高いカリキュラムを構築する。Domain及びKey Wordsは現時点での想定であり、今後学内で検討を進める。

Domain	Key Words
Planetary Futures (地球の未来)	Energy (エネルギー) Environment (環境) Robotics (ロボット工学) Biotechnology (バイオ技術)
Socio-Ecological Systems (社会生態システム)	Urban (都市) Food/Nutrition (食・栄養) Aging society (高齢化社会) Tourism (観光)
Culture & Heritage (文化と遺産)	Arts & Aesthetics (芸術・美学) Inclusion (インクルージョン／包摶) Cities & heritage (都市と文化遺産) Global communication (グローバルコミュニケーション)
Scientific Frontiers (先端サイエンス)	Quantum Physics (量子物理学) Materials Science (材料科学) Planetary and Cosmic Frontiers (惑星・宇宙フロンティア) Data science (データサイエンス)

4 入試戦略

- ◆ 「問う力」を評価する「オンラインテスト」の活用を検討
- ◆ 留学生/帰国子女への対応
 - ・渡日せずに海外で受験できる形で実施
 - ・入学試験は英語で実施
 - ・海外の高校との連携による留学生確保
- ◆ 「飛び入学」を含む多様な入試制度の積極的活用による多彩な人材の確保
- ◆ ギヤップターム活用方策の検討
 - ・日本人学生向け語学教育
 - ・留学生向け渡航前の日本文化教育

5 出口戦略

- ◆ 多様な卒業時期
 - ・早期卒業(3年半)、秋卒業(4年)、海外留学後の卒業(4年半)など、本人の希望に応じた柔軟な卒業時期の設定
- ◆ 多様な進路選択
 - ・OMU大学院
 - ・海外の大学院
 - ・外国人留学生の日本企業・国際機関への就職
 - ・高い国際性を備えた日本人学生の国際機関・行政機関・企業への就職
- ◆ 企業との連携
 - ・企業の通年採用への対応

6 実現に向けたポイント

- ◆ 英語で卒業できるカリキュラム作成のための外国人教員の確保
- ◆ 質の高い留学生の安定的確保
- ◆ 秋入学での優秀な日本人学生の志願者確保
- ◆ 日本人学生の留学必須化による国際性の涵養
- ◆ 産業界(経済団体・個別企業)との連携による共創プログラムの開発、インターンシップの実施

7 スケジュール(2026年度以降)

時期	対応事項
通年	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 制度設計 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 5px;"> カリキュラム、入試制度、留学制度、自治体・企業連携、ギャップターム、施設・設備、FD研修、教員・事務体制、他学部・学域学生への展開、学生寮、奨学金 等 </div> ➤ 広報資料の作成、広報活動(国内外) ➤ 国内外ニーズ調査・マーケティング ➤ 文部科学省(大学設置室・大学入試室等)への個別相談<隨時>
~2027年9月	➤ 入試概要の公表
~2028年10月	➤ 文部科学省への届出
2029年4月	➤ 設置
2029年9月	➤ 学生受入れ開始

8 OMUへの戦略投資を

◆ 運営コスト(2029年~)

教員人件費	約1.3億円/年
職員人件費	約0.6億円/年
活動経費（学生誘致、海外留学等支援、広報等）	約0.5億円/年
合 計	約 2.4 億円/年

※人件費については、

- ・教員15名（うち新規採用10名、組織再編で5名捻出）
- ・職員9名（うち新規採用6名、法人努力で3名捻出）

法人における最大限の自助努力は行いますが、設立団体によるOMUへの戦略的投資として、上記運営経費（約2.4億円/年）の支援を是非お願いしたい。